

第 2 学 年

1 研究テーマ

「表現力・コミュニケーション力を高める指導法の工夫」

－ 国語科の学習を通して －

2 育てたい力

◆表現力

○相手に応じて、身近な事柄について順序を考えながら話すことができる。

◆コミュニケーション力

○互いの話を集中して聞き、話題にそって質問したり答えたりすることができる。

3 研究の視点と手だて

【視点 1】国語の基礎基本の定着を図る活動の工夫

○ワークシートの工夫と活用

○国語スキルタイムの活用（漢字学習・視写）

【視点 2】「聞く・話す」力を高める学び合いの場の設定

○学習形態の工夫（ペア・グループ・クラス全体）

【視点 3】学習環境の整備

○朝の会でのスピーチの工夫

○掲示物の効果的な活用（話し方・聞き方の約束）

第2学年 成果と課題

1 研究の成果

【視点1】国語科の基礎基本の定着を図る活動の工夫

＜ワークシートの工夫と活用＞

- 指導内容に沿って段階的にワークシートを使用したことで、学習がスムーズに行われた。
- ワークシートでは話すための項目を細かにしすぎると、話し合う時に質問が少なくなる予想があったので、大まかな項目でのワークシートを作成した。そのことにより、話し合い活動の質疑が活発になり、楽しい話し合い活動になった。
- 話すためのワークシートだけではなく、話し方モデルやヒントカード（聞き方おたすけカード）を使用したことで、ポイントに沿って話し合うことができた。
- ふりかえりカードを使用することで、本時のめあてを意識することができ、聞き方・話し方の自己評価ができるようになった。
- 児童の自己評価では、質問や感想を話すことができたと答えた児童がたくさんいた。

（98／114人）

＜国語スキルタイムの活用（漢字学習・視写）＞

- スキルタイムや家庭学習での繰り返しの練習で、漢字を着実に覚えることができた。
- 視写学習では、句読点・かぎの書き方や改行の仕方を気をつけるようになった。

【視点2】「聞く・話す」力を高める学び合いの場の設定

＜学習形態の工夫（ペア・グループ・クラス全体）＞

- グループ学習では、机の配置を工夫し、発表者が掲示物を参考にして発表することができた。
- 指導課程の中で、ペア学習・グループ学習の場面をたくさん設定することにより、小グループでの学習が自信をもってできるようになった。
- 児童の自己評価では、ペアやグループでなかよく話し合うことができたと答えた児童がたくさん（104／114人）いた。このことから学習形態の工夫による効果があったと考える。

【視点3】学習環境の整備

＜朝の会でのスピーチの工夫＞

- 毎朝のスピーチで繰り返し経験することにより、みんなの前で話の内容を詳しく考えて話したり、静かに聞いて質問したりすることができた。

＜掲示物の効果的な活用（話し方・聞き方の約束）＞

- 掲示物を提示することで、機会をとらえて意識づけできるようになった。

2 今後の課題

- 他教科の学習にも、意図的に話し合い活動を多く取り入れ、表現力・コミュニケーション力を高めていきたい。
- 学習意欲を継続させるために、漢字などの家庭学習の与え方を工夫していく必要がある。